Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Prognostic significance of PRAME expression based on immunohistochemistry for diffuse large B-cell lymphoma patients treated with R-CHOP therapy

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 三橋, 健次郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31330

主　論　文　の　要　旨

Prognostic significance of PRAME expression based on immunohistochemistry for diffuse large B-cell lymphoma patients treated with R-CHOP therapy （R-CHOP 療法を受けたびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫症例における免疫組織化学による PRAME 発現の予後的意義 ）

東京女子医科大学血液内科学教室
（主任：田中淳司教授）
三橋　健次郎

International Journal of Hematology　第 100 巻　第 1 号　88 頁～95 頁
（平成 26 年 5 月 13 日発行）に掲載

【要　旨】

PRAME（preferentially expressed antigen in melanoma）はメラノーマにおける癌抗原として同定された蛋白で、その発現は様々な悪性腫瘍において予後因子となることが報告されている。本研究ではびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫（DLBCL）における PRAME の発現を免疫組織化学染色で確認するとともに、PRAME 発現の予後的意義を検証することを目的とした。当院で R-CHOP（リツキシマブ、シクロフォスファミド、アドリアシン、オンコビン、プレドニゾロン）療法を施行した初発 DLBCL 症例のパラフィン包埋標本を用いて検討した。対象症例は 160 例で、PRAME 高発現 DLBCL 症例を 21 例に認めた。単変量解析において PRAME 高発現群は PRAME 低発現群と比較し、有意に 5 年無増悪生存率が低く、5 年全生存率も低い傾向にあった。多変量解析を用いた補正比較でも、PRAME 高発現群は PRAME 低発現群と比較し、有意に無増悪生存が不良であった。また、凍結保存検体を有した 40 例における、定量的 PCR 法を用いた PRAME 遺伝子の発現解析では、PRAME 高発現群は有意にその発現量が高いことが確認された。PRAME 高発現 DLBCL は標準的な R-CHOP 療法の有効性が低い可能性が示された。PRAME は DLBCL における新たなバイオマーカーおよび治療標的となる可能性がある。